



## 久世宏明千葉大学名誉教授の最終講義が開催されました

令和3年2月22日(月)に久世宏明先生の最終講義がZoomオンラインにて開催されました。久世先生の最終講義および記念祝賀会はもともと先生が定年退官された昨年度末の令和2年3月10日にけやき会館レセプションホールにて開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためのイベント等の開催ガイドラインが発表されたことにより飲食を伴う記念祝賀会を中止せざるを得なくなり、さらに状況が深刻化したことから多くの人が集まる最終講義もやむなく延期することとなりました。新年度にあらためて通常のオンサイト形式での最終講義を開催すべく検討しておりましたが、全国に緊急事態宣言が発出され、緊急事態宣言解除後も首都圏ではなかなか感染状況が落ち着かないことから、通常の形式での開催をあきらめ、やむなくオンライン形式にて開催することになりました。

当日は久世先生のご希望もあり、102講義室にごく少数の教員・関係者のみが参集し、久世先生にはご自身のPCでご講演いただいてスライドをZoomオンラインで画面共有しつつプロジェクターでスクリーンに投影するという形式で最終講義を実施しました。最終講義を祝した祝電のご披露、先生のご経歴のご紹介のあと、先生に長きにわたる研究者人生を振り返るご講演をしていただきました。ご講演の最後に先生がお若い頃から続けておられる能楽の演奏をご披露下さり、とても雅やかなひと時でした。

最終講義は退官される先生とご縁の深い方々にご参集いただき先生と旧交を温めていただく機会でもありますので、実行委員会としてはギリギリまで通常のオンサイト開催にこだわっていました。今回、コロナ禍がなかなか落ち着かないこともありやむなくオンライン形式での開催となりましたが、100名を超える方々に先生のご講演を聴いていただくことができ、さらに海外からも先生の教え子がたくさん参加して下さい、オンライン開催になったことで多くの方に先生のご足跡とともに振り返る機会を共有できたのではないかと思います。最後に、最終講義を開催するにあたりご協力下さった皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

(最終講義実行委員会・代表 齋藤尚子)



最終講義の様子



久世先生と旧久世研スタッフ・学生、  
実行委員会(入江、椎名、齋藤)

## スマート農業のためのリモートセンシング技術に関する研究会開催

共同利用採択課題プログラム研究研究会（プログラム3 関連）として、昨年1月にドローンリモートセンシングの農業への応用に関する研究会を開催しましたが、オンライン開催が容易になってきたこともあり、新型コロナ禍のもと2021年2月6日に2回目を開催することができました。参加者は60名（登録者74名）でしたが接続先は北海道から九州まで日本全国に渡り、参加者の属性も大学だけではなく、自治体の研究者、企業、ドローンメーカーと多岐にわたり、立場を超えた情報交換を行うことができました。なにより農業の実践者にたくさん集まって頂いたことがこの研究会の特徴であり、あらためてスマート農業の課題が見いだせた会でした。

「ドローン×農業」といった一昔前では想像もつかない新しい時代が拓きつつあります。今回集まった方々は農業を①稼ぎ（ビジネス）としての営みだけではなく、②地域や暮らしを創る営みとしての側面も重視する人々です。千葉大学を核として縁を築いてきたこのコミュニティの力で、農業を通して地方を強くし、都市と地方の交流を強化したいと思います。ドローンリモートセンシングを通してポストコロナ社会のあり方を考えていくきっかけを提供することができたといえます。

当日のプログラムおよび開会にあたっての挨拶を近藤研究室のサイトから閲覧できます。ご興味のある方はこちらからどうぞ。 [近藤研究室へようこそ \(http://www.llsci.net/klab/\)](http://www.llsci.net/klab/) (近藤昭彦)



## 第23回環境リモートセンシングシンポジウム開催

CEReSでは、共同利用・共同研究拠点として、「先端的リモートセンシング」、「地球表層情報統合」、「衛星利用高度化」の3プログラムを軸とした環境リモートセンシングに関連した研究を進めています。特に、本センターの有する施設・設備や受信・収集した衛星データを有効に活用したリモートセンシングによる環境研究の発展を図るため、国内・国外の大学、研究機関などに所属する研究者と当センターの教員が協力して公募型の共同利用研究を実施しています。また、その共同研究を通して皆さまのお役に立てることがCEReSの存在意義の一つであると考えております。

環境リモートセンシングシンポジウムは1年間の共同研究の成果を発表する場、及び情報交換の場として毎年行っています。本年度は、令和3年2月18日にオンラインでslackというコミュニケーションツールを用いて開催しました。上述の3つのプログラム研究に関連した22件の口頭発表と31件のポスター発表が行われ、92名の参加者が熱心に議論を交わしました。

口頭発表では、「災害・防災」「様々な分野への応用」「ひまわり8号の応用」「千葉大学Future Earth」「地球環境モニタリング・モデリング」の5つセッションを開催しました。また、ポスターセッションはslack上にてポスターに対してコメントを付けるかたちで相互交流ができるような仕組みにしました。当日の発表題目等の詳細なプログラムは、CEReSウェブサイト共同利用のページに掲載\*しておりますので、ご参照ください。なお後日、これらの成果として「第23回 CEReS 環境リモートセンシングシンポジウム資料集」を発行する予定です。

また令和3年度の共同利用研究公募を開始しました。公募要項\*は、ホームページからダウンロード可能です。皆様の積極的なご応募を待ちしております。

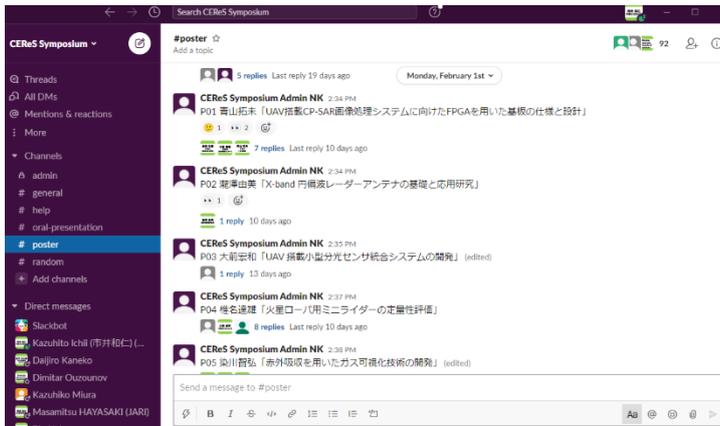
(共同利用研究推進委員：市井和仁)

(\*口頭: <http://www.cr.chiba-u.jp/Documents/symposiums/symp2020/RSprogram23-oral.pdf>)

(\*ポスター: <http://www.cr.chiba-u.jp/Documents/symposiums/symp2020/RSprogram23-poster.pdf>)

(\*公募要項: <https://ceres.chiba-u.jp/2077/>)

(共同利用研究推進委員会委員長 市井和仁)



本シンポジウムの開催の様子、上記はポスターセッション  
(Slack というシステムを利用)

グループ写真の一部

(口頭セッションは Zoom で開催しました)

## アジア・アセアン教育研究センター・TWINCLE 国際授業

**Advance Microwave Remote Sensing and Applications to Monitor Urban Disaster in Asean**

**Prof. Josaphat Tetuko Sri Sumantyo, Ph.D**  
Center for Environmental Remote Sensing, Chiba University  
1-33, Yayoi-cho, Inage-ku, Chiba-shi 263-8522 Japan  
Email [jtetukoss@faculty.chiba-u.jp](mailto:jtetukoss@faculty.chiba-u.jp)  
<http://www.jmrsl.jp>

2021年2月12日に、ヨサファット教授が本学のアジア・アセアン教育研究センター・ツインクルプログラムの国際授業にて、“Advance Microwave Remote Sensing and Applications to Monitor Urban Disaster in Asean”という講演をしました。このオンライン講義には、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、タイなどの協定大学の大学院生(28名)が参加しました。この講義では、当センターで開発された航空機搭載合成開口レーダ(SAR)をはじめ、SAR画像信号処理とその応用を紹介しました。

## リモートセンシングコース修士論文発表会

2月8日(月)の午前9時より、令和2年度の融合理工学府地球環境科学専攻リモートセンシングコースの修士論文発表会が開催されました。今年度の修士論文発表会は、11月の卒研中間発表会、12月の修士研究中間発表会に続き、Microsoft Teamsの「ALL CEReS」のチャンネル上でのオンライン開催となりました。今年は15名の修士課程二年生の学生が研究発表に臨みました(近藤・楊研1名、ヨサファット

研4名、市井研3名、本多・梶原研2名、入江研3名、齋藤研2名)。

一人あたり30分(17分発表、12分質疑)と比較的余裕のあるスケジュールであり、長引くコロナ禍ですでに学生がオンラインでの発表に慣れていることもあって、多少の接続トラブルはあったものの発表会はスムーズに進行しました。どの学生もプレゼン資料はしっかり準備をして発表に臨んでおり、12分と長めに設定してある質疑応答にもきちんと対応していた印象を受けました。また、例年のオンサイト開催では、自分の研究室の学生の発表だけを聴いて帰ってしまう学生がほとんどでしたが、今年は比較的多くの学生がオンライン参加して他研究室の発表も聴いてくれていたようで、この点は会場の人制限がないオンライン開催のよいところだと言えます。修士論文発表会は発表時間も17分と比較的長く、研究の背景や新規性・オリジナリティも含めイントロダクションを丁寧に述べる時間があるため、下級生や他分野の学生にとっても大変勉強になる絶好の機会です。ただ、オンラインだったからなのか、教員・スタッフ・学生から質問があまり出ず、せつかくの質疑応答の時間が余ってしまうことがあった点が少し残念でした。ぜひ、教員・スタッフだけではなく学生からも活発に質問をしてもらいたいと思います。

(CEReS 教育委員会委員長:齋藤尚子)

| 氏名         | 修士論文題目  | 研究室    |
|------------|---|--------|
| XUE ZIXUAN | 千葉地域におけるひまわり8号人工衛星画像の大気補正                           | 入江     |
| 山口航大       | 全光吸収のエアロゾル光学的厚さに及ぼすブラウンカーボンの寄与率の定量的評価               | 入江     |
| 佐野春香       | GOSAT 衛星データを用いた大気中メタン濃度の季節変動とその要因の解明                | 入江     |
| 辻 慧        | 実測反射率データを用いたランドサット衛星画像の大気補正とミクセル反射率に関する研究           | 齋藤     |
| 山田亮太       | ハイパースペクトルカメラとマルチバンドカメラによる大気中水蒸気の空間分布の可視化            | 齋藤     |
| 劉 博郡       | 現地観測と衛星観測を併用した印旛沼におけるクロロフィル a 濃度予測モデルの構築            | 近藤・楊   |
| 石月健治       | 災害・環境観測用合成開口レーダ搭載無人航空機のレドームの設計及び性能評価                | ヨサファット |
| 于 陽        | 少量データ向け SAR 画像の深層学習による北海道胆振東部地震の観測                  | ヨサファット |
| 柏原久人       | 無人航空機搭載円偏波合成開口レーダ用 Xバンドマイクロストリップアンテナの開発             | ヨサファット |
| 平賀誠士郎      | 小型衛星搭載用円偏波合成開口レーダの展開式パラボラアンテナの設計と検証                 | ヨサファット |
| 澤井敦彦       | 衛星観測データによる地上バイオマス(AGB)推定精度向上に関する研究                  | 本多・梶原  |
| 神尾佑馬       | 衛星 LiDAR および 3次元点群データによるシミュレータを利用した森林バイオマスの推定に関する研究 | 本多・梶原  |
| 細谷篤志       | InSAR によるモンゴル ハンガイ山脈周辺における地表面変動解析                   | 市井     |
| 林 航大       | 静止地球観測衛星による湿潤熱帯アジアの陸域植生モニタリングを対象とした時間分解能の改善         | 市井     |
| 川瀬 陸       | 2020年春のシベリアにおける異常高温と陸域環境への影響評価                      | 市井     |